

コロナ禍にもまれながら 地域の学校を思う

教育行財政研究所主宰 中村 文夫

地域の学校で育てる

新型コロナウイルスの感染拡大の中で、地域の学校の必要不可欠を思う。義務制の公立小中学校は、地域あつての学校である。東京でも明治以来、学校は地域住民の知恵と資力と努力によってつくられてきた。関東大震災後も直ちに「復興小学校」として、堅牢な校舎と付随した小規模公園によって防災に秀でた学習環境を作った。

今回の新型コロナでは、国が突然に行った「全国一斉休校」という悪手にもかかわらず、自治体は国に先駆けて方策を講じた。特に子どものいる世帯への支援策は目を見張るものがあった。それは、普段は当然と思ってきた学校の機能がマヒしたことで、改めて学校の重要性を知ったことが原動力になったと思

う。

たとえば、6月までの私たちの調べでは児童手当上乗せ18.9自治体、児童扶養手当上乗せ3.9自治体、合計で33.3%が独自の対策を講じた。東京にあつても、児童手当上乗せ5.9%の自治体で実施した。他にも全国的に現金等の子ども全員給付25.4%、就学援助世帯向け給食費減免措置、あるいは児童生徒全員の年内給食無償化の対策も行われた。学校給食を

一時的ではなく無償化しているところは奥多摩町など全国145にも拡大し、一部補助を含めて26%の自治体に及んでいる。皆で地域の子どもたちを育てるの思いがあるからできることだ。和歌山県太田町では、教職員が弁当を持って希望する家庭に配達を行い、あわせて様子を

確認した。地元商店街が協力して給食サービスを行った地域もある。

学校を臨時休業にしておいて、国が率先して行ったのは遠隔（オンライン）教育を強引に導入したことである。学校でさえ広がっていないICT教育を、狭小住宅が多い日本、パソコンのない家庭も少なくない中で実施したこの政策は理にかなっていない。

学校再開後の激務

5月25日には政府の要請で一斉に学校が再開された。学校再開では、遅れた授業を取り戻すだけではなく感染症対策を行うことが求められている。学校は集団的な学びを行う「3密」状態の環境だ。幸いに日本は、世界的に見ても感染症対策など衛生管理は優れている。学校に養護教員が配置されているのは類をみないことである。国民病であったトラホームへの対策など苦勞を重ねて、保護者からの信頼をかちとってきたのだ。今回も学校職員が一体となって、コロナ対策に当たっている。消毒など神経を使う防疫は子どもたちが来る前、帰ってから続く。この間も、子どもや教職員が感染し、臨時休業をする学校も断続的に現れて緊張を強いられる

いる。それは、地域で医療に当たっている人々、その支援に動員され、その後は様々な公的給付事業に忙殺される自治体の職員同様に、まさに自治体職員の一人として学校職員がいることの証しとして、過労死ラインを超える不眠の仕事に加えての激務になっている。

アフターコロナの学校の在り方

新型コロナの感染拡大で大切なことは、災害に対処している人々の姿を、子どもたちが咀嚼する機会を継続していくことだ。カリキュラムにある教育を急ぎ履修させるだけでは、現実に向かう力を創り出すことはできない。学校の学びは重要だが、それは学びのごく一部にしか過ぎない。それを理解して自制的である必要がある。集団的な学びによって、様々な階層、心身の違いを超えて、子どもたちがリアルな学校で共に学ぶことが将来をつくる。

「率化」は、それはそれで恐ろしいことだ。ハイテクが使い込まれてローテクになった段階で、安全性を確認し慎重に適用させていく腫瘍学が義務教育では大切なのだ。

この20年間、今回の感染症の蔓延を引き起こした新自由主義的なグローバル化の一環であるグローバル人材育成を優先した公教育が進められてきた。しかも、コロナ禍を契機に公教育の私教育化とでもいえる新しい学びとして加速させられようとしている。

3密を避けながら全体の底上げを重視した教育を丁寧にするためにも、ようやく文科省も考えた少人数学級が望まれる。それは学級の小規模化だけではなく、小さな足でも通える生活圏の小さな学校を求めることに通じる。これは人口減少により十分可能な政策だ。そうすれば、どんな学習が行われているか常に住民や保護者の目が届くことになる。現代のインシユタインのような天才のための「個別最適化」の教育ではなく、少しずつ改善しながら普段使いのための学びを丁寧に積み上げていくこと、それが繰り返される天災、人災に衆知を集めて乗り越える社会の底力をつくる方策だと考える。



なかむら・ふみお 1951年生まれ、立教大学法学部卒、明星大学通信制大学院修了。38年間、公立小中学校の事務職員として勤務。明星大学、専修大学非常勤講師などを経て現職。主著に『学校財政』（学事出版）、『子どもの貧困と公教育』（明石書店）、『学校事務クロナクル』（学事出版）など。

断続的に現れて緊張を強いられる

この間も、子どもや教職員が感染し、臨時休業をする学校も断続的に現れて緊張を強いられる

乗り越える社会の底力をつくる方策だと考える。